

東濃ヒノキで新製品

白川町産 大学や業者が報告会

加茂郡白川町産の東濃ヒノキの需要拡大のため、町と大学、民間企業が連携して開発した木製品の報告会が6日、町役場であり、町内の木材加工業者らが製品化に向けて意見交換した。

開発に携わったのは名古屋市の大同大情報学部情報デザイン学科の学生と、岐阜市のコンサルタント会社「テイコク」。東濃ヒノキは主に柱など住宅用に使われてきたが、近年は需要が減少。価格も15年前に比べて4分の1以下に下がり、森林を守るためにも需要拡大が求められている。

報告会では、テイコクが同町と名古屋市で木製品についてアンケート調査した結果を発表。同大学の教授や学生が東濃ヒノキで作ったトレイや鍋敷き、ティッシュケース、ハンガー、ネクタイピン、

座椅子など24点をスライドを使いながら紹介した。木材加工業者からは「デザインは勉強にない」などの意見が出た。現場では端材がたくさん出る。参考にしたい。参考にした。（松浦健司）



木製品開発報告会で、大同大の学生が試作した座椅子に座る参加者。加茂郡白川町役場